

基本的な建物のプロパティを作成または編集するには:

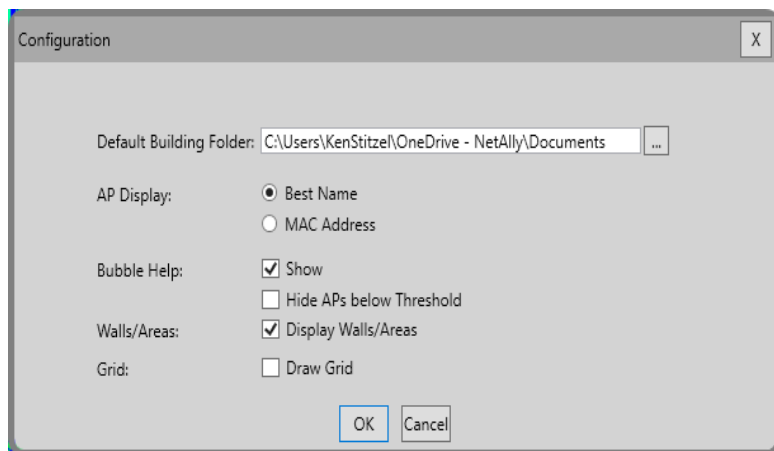
- 「New Building」ダイアログまたは「Edit Building」ダイアログにアクセスします:
 - 新しいプロジェクトの場合、自動的に「New Building」ダイアログが開きます。(このダイアログは「Edit Building」ダイアログと同じです)。
 - 既存のプロジェクトを開く場合、またはプロジェクトをインポートする場合は、MFPで「View」>「View Building Properties」を選択します。これにより、「Edit Building」ダイアログが開きます(このダイアログは「New Building」ダイアログと同じです)。

The screenshot shows the 'New Building' dialog box with the following fields and values:

- Building Name: My Multi Floor Project
- Building Folder: C:\Users\MyName\Documents\My Multi Floor Project
- Building Contact: Management Associates
- Unit of Measurement: Feet
- Number of Floors: 4
- Floor Height: 10.000
- Inter Floor Height: 4.000
- Inter Floor dB per Foot Loss: 8 (with options: Light:8, Medium:12, Heavy:16)
- Inter Floor dB Loss: 32.00

- プロジェクトの「New/Edit Building」ダイアログに必要な事項を入力し、OKをクリックします。

項目	説明
Building Name	建物名または説明を入力します。
Building Folder	プロジェクトファイルのディレクトリパスを入力します。
Building Contact	プロジェクトに関するお問合わせの任意の会社名または担当者名などを入力します。
Unit of Measurement	フィートまたはメートルを選択します。 寸法がわからない場合は、ここでおよその値を入力し、後で値を再調整できます。
Number of Floors	建物の総階数を入力します。
Floor height	各階の床から天井までの距離を記入する。
Inter-Floor Height	床から天井までの距離に含まれない各階の間の距離を記入します。
Inter-Floor dB per <unit> Loss	フロア間の信号損失の数値を選択します。(Light 8, Midium 12, Heavy 16)

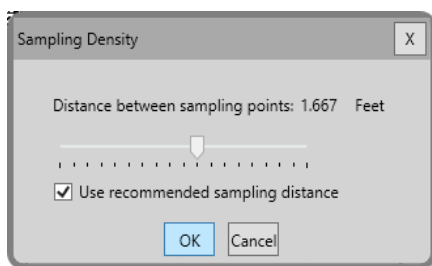


項目	説明
Default Building Folder	プロジェクトファイルを保存するデフォルトのディレクトリパスを入力します。
AP Display	Best Name (各APのテキスト名を表示する)またはMAC Address (MACアドレスで表示する)のいずれかを選択します。
Bubble Help	フロアプラン/マップビューでAPの上にマウスカーソルを置いたときに、AP情報バブルを表示するかどうかをチェックまたはオフにする。
Hide APs below Threshold	チェックまたはオフにすると、必要な信号しきい値を超えないAPが非表示になります。
Walls/Areas	フロアプラン/マップビューのグリッドラインの表示をオン/オフで切り替えます。

Configure Plan (サンプリング密度)


サンプリング密度の設定はオプションの手順です。「Tools」>「Configure Plan」を選択すると、「Sampling Density」ダイアログが開きます。このダイアログにはスライダーがあり、マルチフロアプランナー(MFP)が信号データを処理する精度を制御できます。

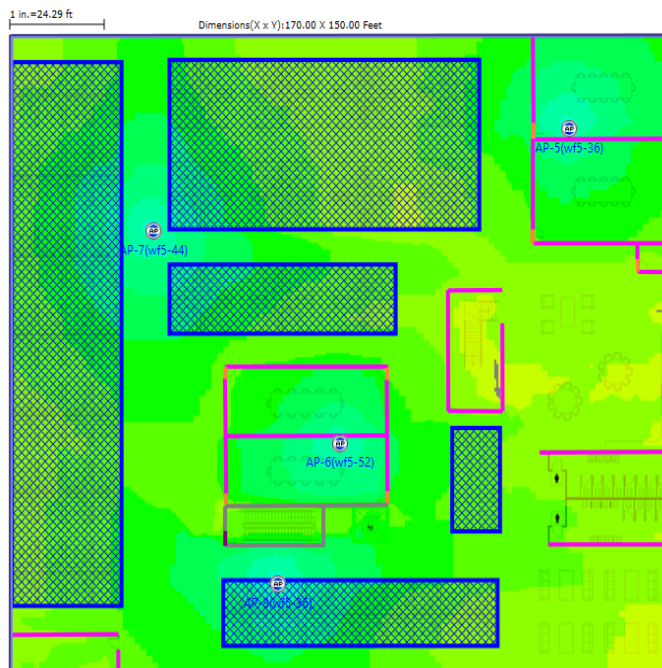
- バーの左端(低)に向かって値を設定すると、信号データの処理にかかる時間は短くなりますが、包括的な処理は少なくなります。
- バーの右端(高)に向かって値を設定すると、信号データの結果はより詳細になりますが、処理に時間がかかります。
- (オプション)「Use recommended sampling distance」チェックボックスにチェックをすると、MFPは使用中のサイトプランのサイズと複雑さに基づいて自動的に推奨値を計算します。大きなマップでは、処理時間を短縮するために推奨値が大きくなります。



フロアの調整

デフォルトでは、プロジェクト内のすべてのレベルが中心点に対して垂直に位置合わせされます。建物のより正確な表現を作成するために、共通の壁、エレベーター、階段などに基づいて各レベルを再調整することができます。

- 「Align Floors」をクリックするか、「Tools」メニューから「Align Floors」を選択します。
- トップ画像の上にある「Select Floor to align」ドロップダウンから、目的のフロアプラン図を選択します。
- 下の画像の上にある「Select Ref Floor」ドロップダウンから、上のフロア図と一致するフロアプランを選択します。
- 上部のフロア図で、位置合わせの最初の点をクリックします。押しピンのアイコンが表示されます。位置合わせの2番目の点をクリックします。2番目の押しピンのアイコンが表示されます。押しピン間の距離は位置合わせエッジを示します。





壁(Wall)ツールの使用

次の手順では、建物の壁とドアの輪郭を描くプロセスを説明します。

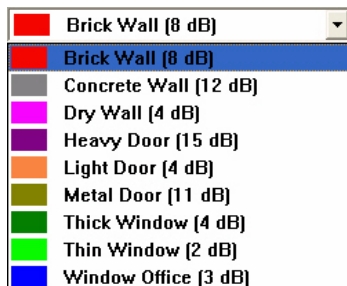
Note: サイトマップに AutoCAD 形式の図面を使用する場合は、Automatic Wall Extractionツールを使用して壁を作成できます。

新しい壁の作成

1. MFPプロジェクトから1つのフロアを選択します。
2. ディスプレイビューにフロアを表示するには、「View 2D」 ボタンをクリックします。
3. 右側のツールバーから「Create Wall」 ツールを選択します。マップウィンドウの右上隅に壁タイプのドロップダウンリストが表示されます。プリセットされた各壁タイプには、プリセットされた dB ドロップレベル(壁がワイヤレス信号に及ぼす減衰効果)があります。

Note: Cisco Prime NCS/WCS Plannerプロジェクトでは、Cisco NCS/WCSタイプの壁のみがドロップダウンメニューに表示されます。

4. 壁のタイプと dB ドロップを選択します。

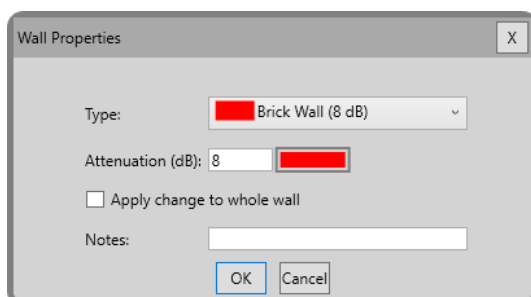


5. フロアプラン/図面上で壁の一端が始まる場所をクリックします。カーソルを角や壁の角度が変わる場所に移し、もう一度クリックします。必要に応じて、壁に沿って数回クリックし、曲がり角やカーブをたどることができます。終了するには右クリックします。これによりディスプレイの壁が埋められます。
 - 壁の描画中に間違った場所をクリックした場合は、キーボードの「Ctrl+Z」を押して、最後のクリックによる操作を元に戻します。「Ctrl+Z」を押し続けると、前のアクションが元に戻ります。
 - 壁の描画をキャンセルするには、「Esc」キーを押します。(描画ツールはカーソルに戻ります。)

- すべての壁が埋まるまで、ステップ3を繰り返します。必要に応じて、ドロップダウンから異なる壁の種類（窓、ドアなど）を選択します。

完成した壁の編集と削除

- 壁を削除するには、壁を右クリックし「Delete」を選択します。
- 壁のプロパティを編集するには、壁を右クリックし、「Properties...」を選択します。「Wall Properties」ダイアログが開きます。選択を行って、「OK」をクリックします。




オプション	説明
Type	ドロップダウンメニューから壁のタイプを変更します。
Attenuation (dB)	壁の減衰または dB ドロップ値は、信号が壁を通過するときの信号強度の低下です。壁の両側で信号強度を直接測定し（たとえば、AirMagnet Survey Pro を使用して）、両側の差を計算して壁の dB ドロップ値を取得できます。 NOTE: この値は減衰指数と同じではなく、オープンエリアに使用されます。壁面ではありません。
Apply change to whole wall	壁のすべてのセグメントに変更を適用するには、このチェックボックスをオンにします。このオプションを選択しない場合、変更は現在選択されている壁のセグメントにのみ適用されます。
Notes	(オプション)プロパティの変更を説明するテキストメモを入力します。





CAD Layers and Automatic Wall Extraction

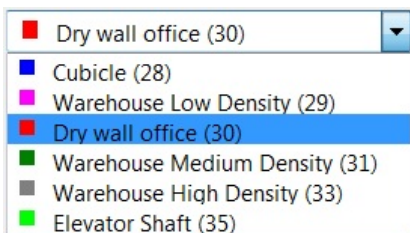
プロジェクトで AutoCAD のフロアプランを使用している場合は、Multi Floor Planner (MFP) を使用して AutoCAD ファイルから壁データをインポートできます。どのレイヤーに壁が含まれているかを選択し、その位置に MFP で自動的に壁を描くことができます。

- 使用する CAD レイヤを選択します。
- 壁を抽出します。
- 必要に応じて壁を修正します。「[壁\(Wall\)ツールの使用](#)」を参照してください。

CAD レイヤを選択する

- MFP プロジェクトから 1 つのフロアを選択します。
- ディスプレイビューにフロアを表示するには、「View 2D」 ボタンをクリックします。
- Tools > Configure CAD Floor Plan を選択します。次のようなウィンドウが表示されます。このウィンドウでは、マップに表示する AutoCAD レイヤを決定できます。

- MFPプロジェクトから1つのフロアを選択します。
- ディスプレイビューにフロアを表示するには、「View 2D」 ボタンをクリックします。
- サイドツールバーから減衰エリアボタンのいずれかを選択します：
 -  Create Rectangular Attenuation Area
 -  Create Arbitrary Attenuation Area
 -  Create Arbitrary AP Exclusion Area
- 減衰インデックスがプリセットされた減衰タイプのいずれかを選択すると、マップビューの右上隅にドロップダウンリストが表示されます。メニューからエリアタイプを選択します。









- 各エリアタイプに表示される数値は、そのタイプに組み込まれている減衰指数を示します。この指数は、オープンエリアを移動する RFTラフィックの信号劣化率を示す指標です。
 - 値が大きいほど、信号強度の低下が大きくなります。スペースが大きいほど減衰指数が高くなります。
 - この値は、壁を通過する信号の dB ドロップ値と同一ではありません。
- 減衰エリアをマークします。
 - Rectangular Area**(四角形)のエリアの場合は、描画を開始したい点で1回クリックし、カーソルをエリアの反対側にドラッグします。四角形が正しいサイズになったらクリックを放します。
 - Arbitrary Area**(任意)のエリアの場合、描画を開始したい点で1回クリックします。次に、カーソルをエリアの次の角に移動してシングルクリックします。次の角でもこれを繰り返します。最後の角をマークしたら、右クリックまたはダブルクリックして、最後の点と最初の点が自動的に結ばれ、エリアが完成します。
 - Elliptical Area**(楕円形)のエリアの場合は、楕円の片側を1回クリックし、カーソルをエリアの反対側にドラッグします。楕円が正しいサイズになったらクリックを放します。
 - さらに描画したい減衰エリアがある場合は、このプロセスを繰り返します。

カバレッジエリアまたは除外エリアの描画

これらのツールは、良好なカバレッジが必要なエリアや、カバレッジから除外できるエリアをマークします。(これらのツールは減衰エリアツールと同様に機能しますが、エリアタイプを選択する必要はありません。)

任意のエリアを描画するには：

- サイドツールバーからカバレッジツールまたはExclusion(除外)エリアツールのいずれかを選択します：
 -  Create Rectangular AP Coverage Area
 -  Create Rectangular AP Exclusion Area
 -  Create Arbitrary AP Coverage Area
 -  Create Arbitrary AP Exclusion Area
 -  Create Elliptical AP Coverage Area
 -  Create Elliptical AP Exclusion Area

アンテナマネージャーの使用

マルチフロアプランナーのアンテナマネージャー(「Tools」>「Antenna Manager」)は、既存のアンテナを管理し、新しいアンテナパターンを作成することができます。また、アンテナが生成するパターンを照合できるアンテナパターン修正ツールも含まれています。

- [マルチフロアプランナーに含まれるアンテナプロパティの表示](#)
- [カスタムアンテナパターンの作成](#)

最新のアンテナパターンを入手する

AirMagnet Survey PROの各リリースでは、リリース日の時点で更新されたアンテナパターンが提供されます。NetAllyの総合サポート・保守サービスである AllyCareにご加入いただいている場合は、以下の手順で最新のパターンをダウンロードできます。(AllyCareに加入していない場合は、アンテナパターンが存在するかどうかを確認することはできませんが、ダウンロードすることはできません。)

1. MyAirMagnetアカウントにサインインします。(このページから、登録済み製品のセクションでサポート契約の状況を確認できます)。
2. 「Planner Antenna Patterns」リンクをクリックすると、メーカー別にソートされたパターンのリストが表示されます。リストには、リリース日と、そのメーカーの更新されたパターンへのリンクが含まれています。
3. 画面の指示に従って、新しいパターンをダウンロードして使用を開始します。

マルチフロアプランナーに含まれるアンテナプロパティの表示

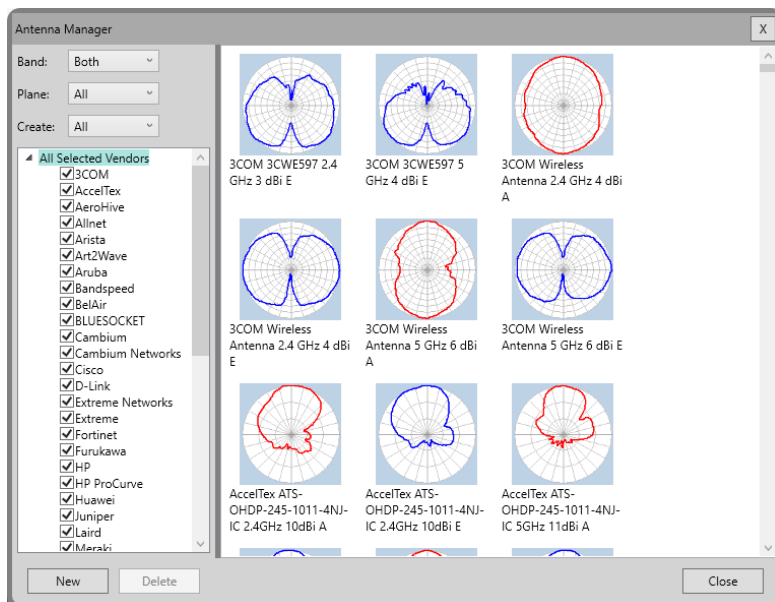
このトピックでは:

- アンテナプロパティの検索と表示
- [ユーザー定義パターンの作成と削除](#)

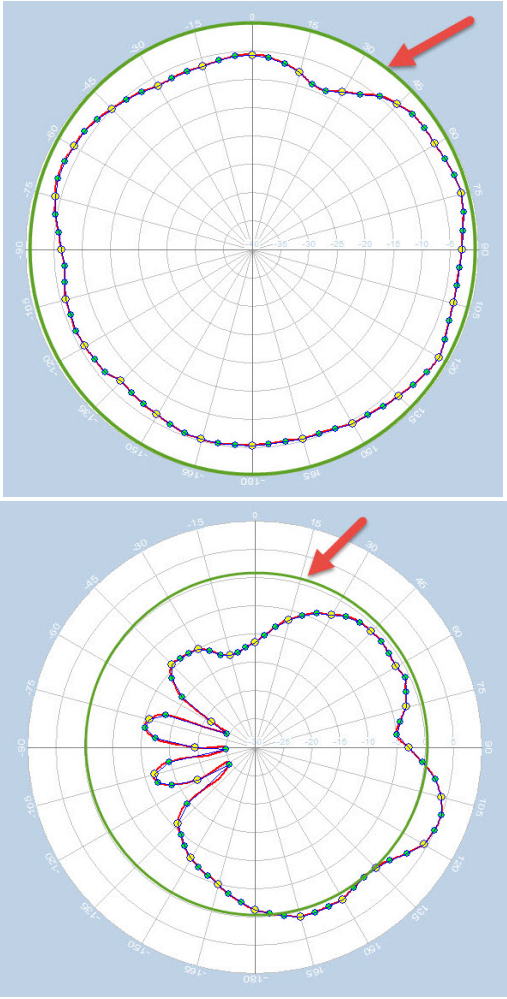
アンテナプロパティの検索と表示

Multi Floor Planner (MFP)に含まれるプリセットのリストでアンテナを見つけることができます。

1. 「Tools」>「Antenna Manager」をクリックして「Antenna Manager」を開きます。(「AP Properties」ダイアログから「Pattern」ボタンをクリックして開くこともできます)。



2. ウィンドウの左上にあるフィルタ オプションとベンダー選択リストを使用して、選択内容に一致するアンテナを表示します。

Ring Count	フィールドダイアグラム(図)に表示される同心円の数(一番外側のリングを含む)。
0 dB Ring #	ダイアグラム(図)の中心から 0 dB リングまでの dB リングの数。
dB Interval	ダイアグラム(図)の各リング間の間隔 (dB)。
0 Ring dB Gain	<ul style="list-style-type: none"> アンテナベンダのユーザーマニュアル/データシートに記載されているピークゲイン値を示します。 フィールドパターンがいずれかの点でピークゲインに達するかそれを超える場合は、0 が表示されます。 次の例では、0 dB リングが太字で強調表示され、矢印で示されています。最初の例では、アンテナパターンはピークゲイン値を超えていないため、ベンダーのマニュアルによれば、0 Ring dB Gain 値は 3.00 です。2 番目の例では、アンテナパターンがピークゲインを超えているため、0 Ring dB Gain 値は 0 です。
	
Show Handle	フィールド上の黄色の点を結ぶ青い直線と、赤色の曲線フィットラインを表示します。
Show Assist	最適なフィット(赤色)曲線で結ばれた中間の青い点を表示します。
Save as New	現在のアンテナパターンのプロパティに基づいて新しいパターンを作成するには、このチェックボックスを選択します。新しいパターンの作成手順は、「 カスタムアンテナパターンの作成 」を参照してください。

ユーザー定義パターンの作成と削除

ユーザー定義パターンは、プリセットされた定義パターンに基づいて、またはベンダーの仕様書からパターンを作成して、新しいユーザー定義パターンを作成することができます。また、ユーザー定義パターンを削除することもできます。

- 新しいユーザ定義パターンを直接作成するには:
 - 「New」ボタンをクリックします。アンテナパターンダイアログが開きます。
 - 作成手順は、「[カスタムアンテナパターンの作成](#)」を参照してください。
- プリセットのベンダー定義パターンに基づいて新しいユーザ定義パターンを作成するには:
 - 上記の「[アンテナプロパティの検索と表示](#)」の説明に従って、プリセットパターンを検索します。
 - パターンを選択します。
 - 作成手順は、「[カスタムアンテナパターンの作成](#)」を参照してください。
- ユーザ定義パターンを削除するには:
 - 上記の「[アンテナプロパティの検索と表示](#)」の説明に従って、ユーザ定義パターンを見つけます。
 - パターンを選択します。
 - 「Delete」ボタンをクリックします。

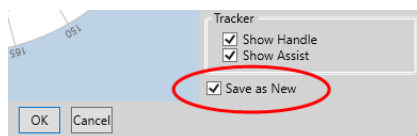
Note: 事前定義されているパターンは削除できません。

カスタムアンテナパターンの作成

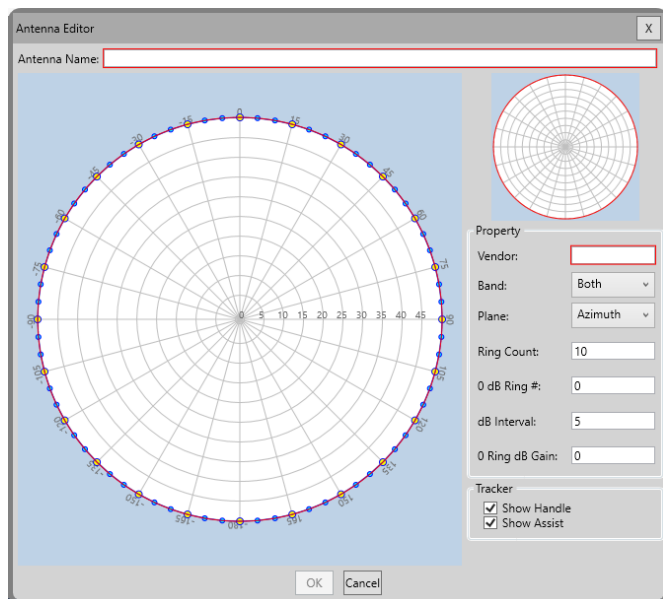
使用するアンテナがプリセットリストにない場合は、ベンダーの仕様または事前定義されたベンダーパターンの1つに基づいて、カスタマイズしたアンテナパターンを作成できます。これにより、Multi Floor Plannerは目的のパターンを正確に投影できるようになります。

新しいアンテナパターンを作成するには:

- 「Antenna Manager」から、「New」ボタンをクリックして「Antenna Editor」ダイアログを開くか、以下の手順で定義済みのパターンから開始します:
 - 「[アンテナプロパティの検索と表示](#)」の手順で、作成したいパターンに似たパターンを持つアンテナを選択します。
 - アンテナパターンをダブルクリックして、「Antenna Editor」ダイアログを表示します。
 - ダイアログの右下にある「Save as New」チェックボックスを選択します。これにより「Antenna Editor」ダイアログにパターンとそのプロパティが開きます。




TIP: 多くの場合、作成したいパターンに似た既存のパターンを使用すると時間を節約できます。



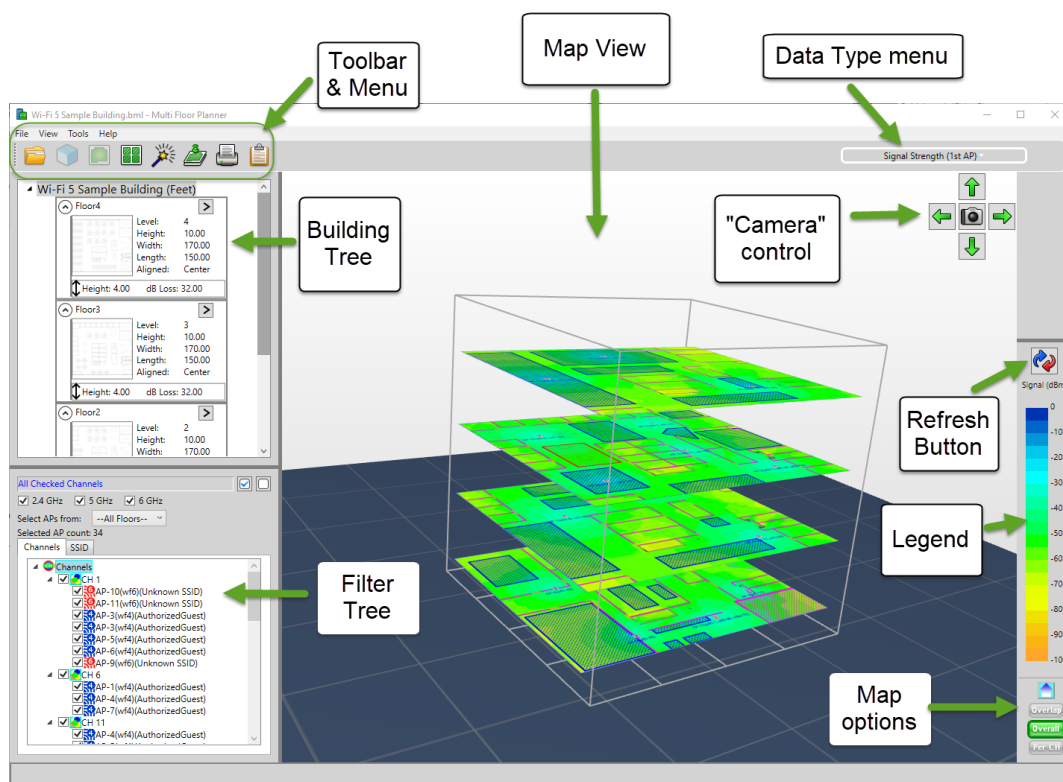
新しいパターンを削除するには、「User Defined」パターンのリストからそのパターンを選択し、「Delete」をクリックします。（プリセットパターンは削除できません）。

マルチフロアデータの表示

APが（インポートされたサイトプランの一部として、またはView 2Dに追加して）プロジェクトに組み込まれると、Multi Floor Planner(MFP)はデータを処理して、Wi-Fi環境を予測的に色分けして視覚化します。

開始するには、「Refresh」 をクリックします。MFP はプロジェクトを処理し、色分けされたヒートマップ表示を行います。カラーコードは右端の「Legend」バーに対応しています。


以下の例は、3D viewを示しています。ビルディングツリービューは2D viewに含まれないことに注意してください。

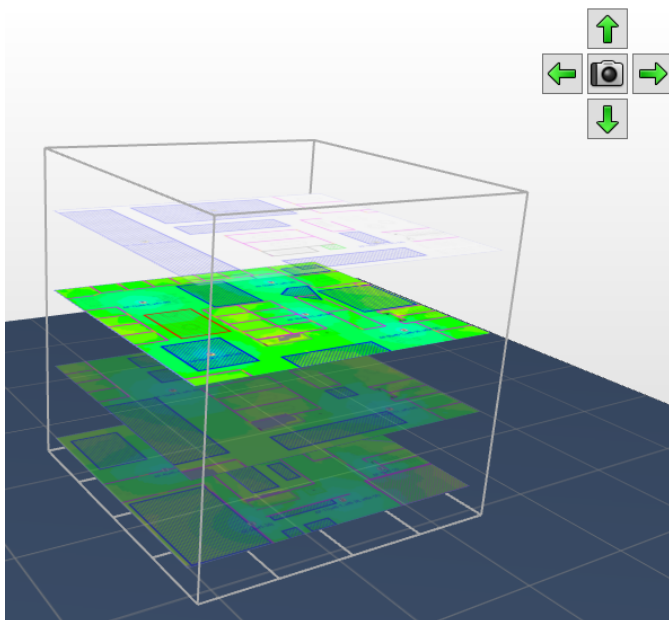


ユーザーインターフェイスの様々なコントロールを調整することで、様々な方法でデータを表示することができます。（[データフィルタリングの例](#)をご参照ください。）

3D View



以下の手順で「View 3D」を表示できます：

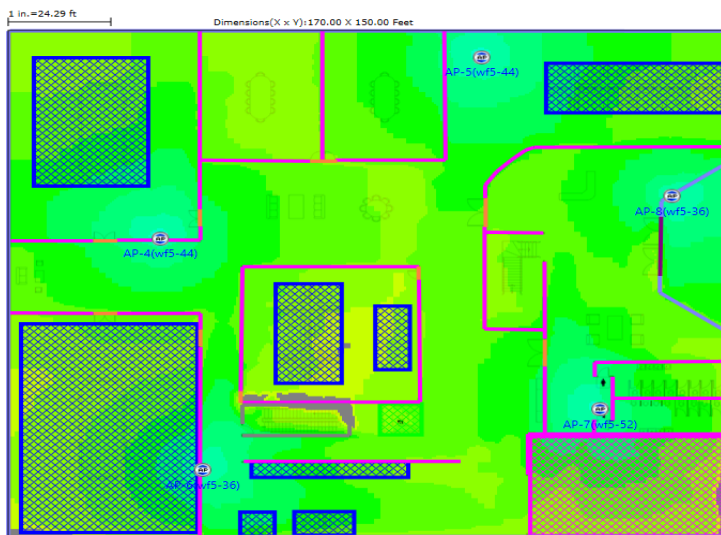
- 「View」 > 「View 3D」を選択します。
- MFPの「View 3D」 ボタンをクリックします。View 3Dには、マップビューのすべてのフロアが表示されます。ビュー上にカーソルを置き、マウスをドラッグして、建物を回転できます。ビルディングプロジェクトツリーからレベル(階)を選択すると、View 3Dで選択したレベルに焦点が合わされ、他のレベルは暗くなります。




2D View

以下の手順で「View 2D」を表示できます:

- 「View」>「View 2D」を選択します。
- ビルディングツリービュー(メイン画面の左上)でフロアを選択し、「View 2D」 ボタンをクリックします。
- 「View Thumbnail」 を選択し、「View 2D」で表示したいフロアをダブルクリックします。



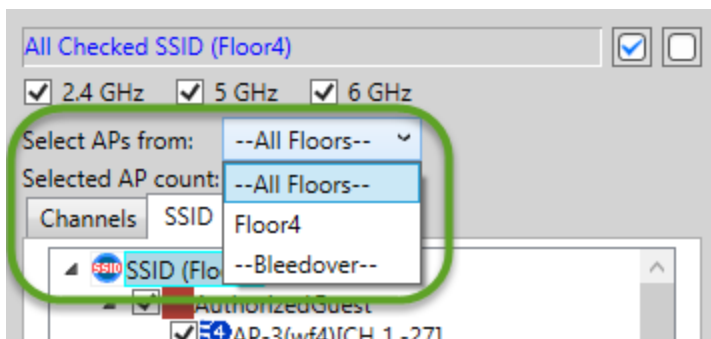
Thumbnail View

- 「View Thumbnail」 をクリックすると、プロジェクト内のすべてのフロアのサムネイルイメージがマップビューに表示されます。
- 1つのフロアをダブルクリックすると、そのフロアがView 2Dで表示されます。

データフィルタリングの例

「Floors」または「Bleedover」でフィルタリングするには:

「Select APs from」ドロップダウンメニューを使用して、表示するAP情報を制御します。



- **All Floors:** (フロアを選択していない場合のみ有効) すべてのフロアのすべてのAPからのデータを表示します。
- **Floor #:** 現在選択されているフロアのみを表示するか、複数のフロアから選択できます。
- **Bleedover:** (フロアを選択した場合にのみ表示されます。) 現在選択されているフロアのAPからのデータをフィルタリングし、他のフロアから波及するデータを表示します。

NOTE: アンテナに高さ方向の分散パターンが含まれていない場合、またはビルプロジェクトのフロア間の減衰が大きい場合(厚い鉄筋コンクリートのフロアなど)、「Bleedover」情報の用途は限定的である可能性があります。

選択されたフロアからの信号伝播

あるフロアからの信号強度が建物全体にどのような影響を与えるかを確認するには:

1. 「Refresh」アイコンをクリックしてヒートマップを生成します。
2. データタイプメニューから「Signal Strength」オプション(1st AP、2nd AP、3rd AP)オプションを選択します。
3. ビルディングツリーで親ビルディング名を選択して、すべてのフロアでデータフィルタリングを有効にします。
4. 「Check All」チェックボックスを使用して、「Filter Tree」内のすべてのAPを選択します。
5. 「Filter Tree」の「Select APs from」ドロップダウンから、フロアを選択します(例: Floor 1)。このオプションは、選択したフロア以外のすべてのフロアのAPからのデータをフィルタリングします。

チャンネルまたはSSIDによる信号伝播

チャンネルやSSIDによって信号強度がどのように伝搬するかを確認するには:

1. 「Refresh」アイコンをクリックしてヒートマップを生成します。
2. データタイプメニューから「Signal Strength」オプションの1つを選択します。
3. ビルディングツリーで親ビルディング名を選択して、すべてのフロアでデータフィルタリングを有効にします。
4. 「Filter Tree」で「Channel」または「SSID」タブを選択します。
5. Mapコントロールから「Per CH」または「Per SSID」を選択します:




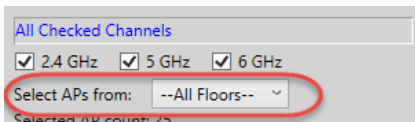
NOTE: マップコントロールがレジェンドバーの下に表示されていない場合は、レジェンドの上にあるセパレーターバーをクリックし、マップコントロールが表示されるまで上にドラッグします。


6. 「Filter Tree」で目的の親リストまたは子リストを選択して、すべてのチャンネル、個別のチャンネル、または個別のAPからのデータを表示します。

フロア間の信号ブリードオーバー(影響)

特定のAPまたはAPセットの信号強度が他のフロアにどのように伝播するかの影響を含めるには:

1. 「Signal Strength」オプションを選択します。
2. 「View 3D」  アイコンを選択し、ビルディングツリービュー(画面左上)でビル名をクリックして、すべてのフロアでデータフィルタリングを有効にします。
3. 「Filter Tree」のドロップダウンから「All Floors」を選択します。



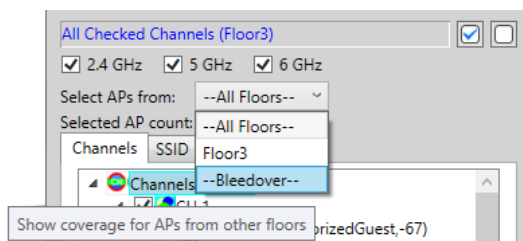
(Filter TreeにAPが表示されていない場合は、「Refresh」  アイコンをクリックしてください)。


4. 「Filter Tree」で「Checked All」オプションを使用してすべてのフロア間エフェクトを表示するか、すべてのAPの選択を解除してからAPを個別に選択して特定のAPのエフェクトを表示します。

シングルフロアでの信号ブリードオーバー(影響)

他のフロアからの信号強度が選択したフロアにどのような影響を与えるかを表示するには:

1. データタイプメニューから「Signal Strength」オプションを選択します。
2. ビルディングツリービュー(画面左上)でフロアを選択し、データのフィルタリングを有効にします。
3. 「Filter Tree」で、「Select APs from」ドロップダウンをクリックし、「Bleedover」を選択します。このオプションは、選択したフロアのAPからのデータをフィルタリングし、他のフロアからのブリードオーバー(影響)データを含めません。




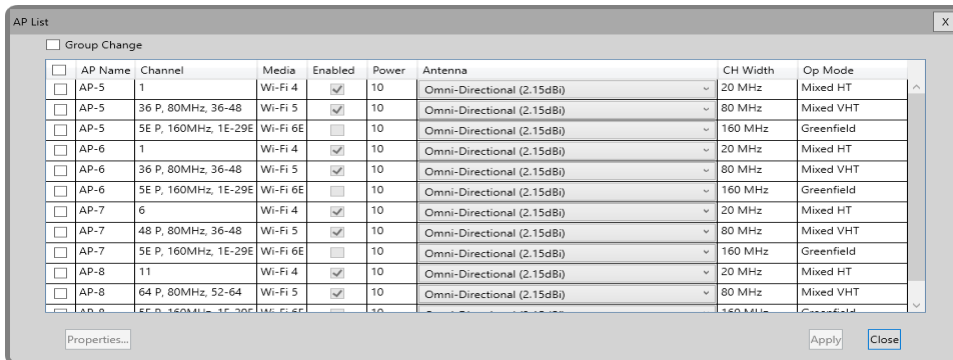
TIP: このデータは「View 2D」  で表示する方が見やすい場合があるかもしれません。

APリストの表示

現在、フロアプラン プロジェクトにあるすべてのAPのリストをフロアごとに表示できます。

フロアの全APを一覧表示するには:




1. ビルディングツリービュー(画面左上)でフロアを選択します。
2. 「View 2D」  アイコンをクリックします。
3. 「View」 > 「Show AP List」を選択する。このオプションで「AP List」ウィンドウが開きます。



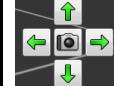

Side Toolbar

マップビューの右側には、マップやオブジェクトを変更するためのツールバーがあります：

項目	説明
 Enlarge rectangular area	このアイコンを選択し、クリックしてドラッグし、地図上に四角形の輪郭を描きます。クリックを放すとズームされます。
 Selector	カーソルを選択矢印に変更します。
 Zoom in/out	+ アイコンをクリックすると表示を拡大できます。- アイコンをクリックすると表示を縮小できます。
 View Thumbnails	左側のアイコンは、利用可能なウィンドウのスペースに合わせてマップのサイズを変更します。右側のアイコンは、マップを通常のサイズに戻します。
 Add AP	APの追加ができます。詳細は「 APの追加と編集 」を参照してください。
 Measure Mode	「Measure Mode」をオンにすると、サイトマップ上の任意の 2 点間の距離を測定できます。また、測定値に基づいてサイト寸法を再調整することもできます。
 Create Wall	壁を作成し、フロアプラン図のタイプを選択します。詳細は「 壁(Wall)ツールの使用 」を参照してください。
 Create Rectangular Attenuation Area	エリアタイプ(キュービクル、オフィスなど)を選択し、四角形のエリアを描画します。詳細は「 減衰、カバレッジ、および除外エリアの描画 」を参照してください。
 Create Arbitrary Attenuation Area	減衰エリアを任意の形状で描画できます。詳細は「 カバレッジエリアまたは除外エリアの描画 」を参照してください。
 Create Elliptical Attenuation Area	エリアタイプ(キュービクル、オフィスなど)を選択し、楕円形のエリアを描画します。
 Create Rectangular Coverage Area	四角形のエリアを描画します。
 Create Rectangular Excluded Area	四角形の除外エリアを描画します (Planner Advisor で使用)。
 Create Arbitrary Coverage Area	任意のカバレッジエリアを描画します。
 Create Arbitrary Excluded Area	任意の除外エリアを描画します (Planner Advisor で使用)。
 Create Elliptical Coverage Area	楕円形のカバレッジエリアを描画します。
 Create Elliptical Excluded Area	楕円形の除外エリアを描画します (Planner Advisor で使用)。

 Clear All	配置されているすべてのオブジェクト、または特定のタイプのすべてのオブジェクト (AP、減衰エリア、壁など) を削除します。
 Undo	前のアクションを元に戻します。
 Refresh	ヒートマップの生成と更新をします。

Map View Options

項目	説明
 Camera	「View 3D」のパンコントロール。カメラのアイコンをクリックすると、デフォルトのビューがリセットされます。矢印でパン方向をコントロールします。
Zoom and Rotate	「View 3D」で、左クリックしたまま好きな方向にドラッグすると、3D空間内で建物を回転させることができます。右クリックしたまま上にドラッグすると拡大、下にドラッグすると縮小します。
Right-click	右クリックでポップアップメニューを表示させれば、プランナーマップビューのオブジェクトを修正したり削除したりできます。「 右クリックメニューの使用 」を参照してください。
Hover	「Refresh」  ボタンをクリックしてヒートマップを作成した後、ヒートマップの上にマウスを置くと、その場所のカパレッジとAP情報が表示されます。

File Menu

項目	説明
New	マルチフロアプランナーのプロジェクトを作成します。ファイルの拡張子は.bmlです。
Open	マルチフロアプランナーのプロジェクトを開きます。ファイルの拡張子は.bmlです。
Close	マルチフロアのプロジェクトを閉じます。未保存の場合、変更を保存するオプションが表示されます。
Save	現在オープンしているマルチフロアのプロジェクトを保存します。
Export	プロジェクトを .zip ファイルとしてエクスポートします。Multi Floor Planner を実行している別のマシンでプロジェクトをインポートするには、このオプションを使用します。
Export to CAD	サイトマップにAutoCAD形式のファイルを使用した場合、マップをAutoCADにエクスポートできます。プロジェクトのサイトマップにAutoCADイメージをインポートした場合は、このオプションを使用すると、イメージに追加されたAPおよび壁データと共にプロジェクトをAutoCADにエクスポートできます。
Import	.zipファイルからプロジェクトをインポートします。「File For Import」から.zipを選択します。「Import Location」でインポートしたプロジェクトを作成します。
Print Preview (Current View)	現在のビューの印刷プレビューを開きます。
Recent Files	以前に開いたファイルを一覧表示します。
Exit	MFPを終了します。

View Menu

項目	説明
View 3D	「 3D View 」を参照してください。
View 2D	「 2D View 」を参照してください。
View Thumbnail	「 Thumbnail View 」を参照してください。
View Building Properties	「 基本的な建物のプロパティを作成または編集するには 」を参照してください。

View Legend	レジェンドツールが使用(表示)できない場合、このオプションによりレジェンドが復元できます。
View AP List	サイトプランに現在配置されている全てのAPを一覧表示します。「 APリストの表示 」を参照してください。

Tools Menu

項目	説明
Align Floors	「 フロアの調整 」を参照してください。
Reset Alignment	建物のレベルをデフォルトの中央揃えにリセットします。
Copy View	現在のサイトマップビューをクリップボードにコピーします。
Copy Current View	現在のビューをコピーします。ビューをズームしている場合、この選択肢はズームエリアのみをキャプチャします。
Configure	「Configuration」ダイアログが開きます。このダイアログでは、プロジェクトのデフォルトディレクトリを入力し、AP、バブルヘルプ、壁/エリア、Gridのオプションを表示できます。
Configure Plan	カスタム サンプリング密度 を入力します。
Configure Walls/Areas	「 壁(Wall)ツールの使用 」を参照してください。
Configure CAD Floor Plan	AutoCAD ファイルを使用してフロアプランを作成した場合のみ使用できます。間取り図に含める AutoCAD レイヤーを選択し、壁を抽出できます。「 CAD Layers and Automatic Wall Extraction 」を参照してください。
Antenna Manager	「 アンテナマネージャーの使用 」を参照してください。

Help Menu

項目	説明
View Help	ヘルプを開きます。
Sample Project	Wi-Fi 5またはWi-Fi 6用のサンプルMFPプロジェクトを開きます。
About Multi Floor Planner	バージョンやビルド番号など、MFPに関する基本情報を表示します。

右クリックメニューの使用

配置したオブジェクトは、右クリックしてメニューオプションを選択するだけでいつでも変更または削除できます。

Note: メニューに表示されるオプションは、選択したオブジェクトによって異なります。例えば、“Locked AP”と“Default AP”のオプションは AP を右クリックした場合にのみ表示されます。

項目	説明
Properties...	選択したオブジェクトに応じて、「AP Properties」または「Wall Properties」ダイアログボックスが開きます。
Delete	選択したオブジェクトを削除します。
Locked AP	選択したAPをロックします。これにより、アドバイザーは AP のプロパティを変更できなくなります。
Default AP	選択したAPのプロパティをプランナーのデフォルトAP設定として指定します。これを選択した後に配置されたAPIには、現在のAPの設定が反映されます。